

Title	汐見三郎著 経済統計研究
Sub Title	
Author	園, 乾治
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1923
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.17, No.2 (1923. 2) ,p.310(152)- 311(153)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19230201-0152">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19230201-0152</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

なる手段を採るべきかを示し、更に第三の節に於ては一兩年來屢々問題となつた所の船舶合同に關して其の利害、方法、實行の徑路等を論じて本文二百七十五頁を終つて居る。而して五十八頁に亘る附録には、本邦に於ける主要汽船會社十社の沿革、現状が述べられて居る。

全篇を通じて平明流暢の筆致を以て事實を叙し事理を語つて居る點、特に「お手のもの」の豊富な材料を巧みに使ひこなして本邦の海運を取扱つて居る點は本書の長所とする所である。唯、一般國民の經濟生活と關係深きコンフェレンスの本邦を中心としての實狀が毫も之によつて窺ひ知られなかつたことは幾分失望せざるを得なかつた所であるが、然し一と通り海運に就ての豫備知識を有する者にとつては勿論、全くの門外漢にとつても、一個の有益なる書み物たるを失はない。私は元來、鐵道や其の他一般の交通の如く、技術や實務と深い關聯を有するものに關しては、實際家の知識に待つにあらざれば了解充分なるを得ざるものがあるにも拘らず、從來

授は挺身この至難の業にあたり、續々その研究を「經濟論叢」に寄せ、我が學界に於いて殆んど未拓の境地に就き多大の貢獻をなしつつあるは、畏敬措く能はざるところである。

助教が如何なる問題を取扱ふに方つても、頗る用意周到にして然かも陥り易き左顧右眄の弊に墮せず、信ずるところを直截に披瀝して遲疑せざる鋭敏の筆鋒を以つてするは、一度その所論に接したるもの、容易に首肯するところであらう。本書収録する雄篇十七、而して論ずる範圍、國民所得分配狀態の測定方法、我が國に於ける國民所得の發達及び地方分布、「國富統計」批判、所得税均等負擔の問題、累進税の公平犧牲説に關する統計的觀察、租税負擔の地方別研究、新所得税に關する武藤氏との論争、生計調査論と之が二種の實地調査の報告、物價騰貴と通貨との關係並びに之に關する福田博士との論争、指數論、兌換券發行額に關する二論文、孰れも出色の文字たらざるはない。然かも篇中隨所に利用せられたる統計が、乏しき資料を索

我國に於ては實際家の此の方面に於ける活躍を見るに至らざりしことを豫てから遺憾として來たのであるが、今、伊東氏の此の著書に接して豫ての希望の一端が充たされて愉快の念を禁ずることが出来ない。私は之を機會として爾後益々多數の實際家の間から此の方面の著書の續出するに至らむことを希望して已まないものである。(増井幸雄)

沙見三郎著 經濟統計研究

菊判三六六頁附録五七頁

定價金三圓八拾錢

内外出版株式會社

經濟學上の諸問題を論ずるに方つて統計的研究の忽せにすべからざることは久しく唱へらるゝところであるが、我が國に於いてはその反響を傳へるものが洵に乏しい。これは一には據るべき資料の尠いことにも原因してゐるであらうが、また一にはこれを行ふことの容易でないことにも原因してゐると思ふ。然かるに沙見助教

ねて苦心したる結果なるを知るに於いて、眞摯なる助教の研究に對する畏敬の念は更らに深からざるを得ない。

新たに上梓して世に問ふこの論文集を手にし「高尚なる事實を捕へて幽玄なる理論を説く事は其任にあらざるを自覺してゐる。茲に於いてか手近にある平凡なる經濟現象を研究の對象として統計的研究を試みる事を自己の學問的態度と定めたのである」といふ謙讓の裡に藏するその抱負を窺ひ、切に將來の寄與を祈つて已まない次第である。(園乾治)